

学校間の合同交流事業を通じた特別支援教育の在り方 ～県内各地の事例を通して～

提案者 栃教協教研推進委員会特別支援教育部
大田原市立薄葉小学校 教諭
川島路美
足利市立三重小学校 教諭
高橋正

1 提案趣旨

本部会では、これまで、個々の能力や可能性を最大限に伸ばすための指導や支援の在り方、特別支援教育の全校的・機能的な支援体制の在り方等について研究を進めてきた。昨年度は、通常の学級との生活面での交流及び共同学習について県内各地から事例を収集し比較・検討することで、交流及び共同学習の円滑な推進に向けてのヒントを明らかにした。

今年度は、自校内での交流のみならず、学校間での交流事業に焦点を当て、その事業の特徴を比較・検討することで、子供たちの能力や可能性をさらに伸ばす交流及び共同学習につながるのではないかと考え、県内各市町での事例を集めて提案することとした。

現在、コロナ禍で実施が難しい事業もあるが、感染症対策をした上で実施しようとする事業も多くなってきていることを踏まえ、本研究が今後の新しい実施方法の検討に向けてその参考となることを願う。

2 研究計画

「交流及び共同学習」…3年計画（本年度はその2年目）

R2年度（1年目） 通常の学級での交流	登校から下校までの生活面に焦点を当て、交流及び共同学習を進める上での「ポイントやヒント」について提案
R3年度（2年目） 学校間の交流事業	各地区の学校校種間における合同交流事業の事例収集、提案 「合同運動会」「共同学習発表会」
R4年度（3年目） 地域間の交流事業	行政や外部機関と連携した交流及び共同学習について提案

3 提案内容

(1) 事例収集について

本提案では、本部会の部員が在籍している市町の小・中学校の事例を収集した。事例収集の結果、次のような学校間交流があることが分かった。〈小学校間交流〉〈中学校間交流〉〈小・中学校間交流〉〈地区内全体での小・中・特別支援学校間交流〉

交流の内容は、合同宿泊学習や合同校外学習等の交流事業の事例もあったが、今回は事例が多く、今後も継続可能な合同運動会と学習発表会について提案することとした。

(2) 合同運動会

① 共通項目

ア 全体にわたって共通する項目

- ・体育館を借用する。
- ・担当校が中心となり運営を行う。

イ 特徴的な項目

- ・市の事業として開催している。(鹿沼市)
- ・地区で開催している。(南那須地区)

ウ おもしろ種目の説明

- ・ひたすらオセロ…片面白と片面黒の紙を時間内にめくり、数を競う。
- ・タッピング…万歩計を腰に付け、足踏みをする。グループごとのリレー形式で歩数を競う。
- ・ごはんですよ…ご飯に見立てた緩衝材をお箸でつかみ、別の入れ物に移したら次の人と交代し、リレー形式で順位を競う。

② 提案事例

ア 小学校間交流 (宇都宮市・上三川町の例)

a 特徴

- ・保護者ボランティアによる運営協力がある。
- ・下学年、上学年で種目が分かれている。

b 課題

- ・会場や駐車場の確保。
- ・保護者ボランティアの確保。

イ 中学校間交流 (宇都宮市の例)

a 特徴

- ・生徒全員が全部の種目に参加している。

b 課題

- ・参加人数が増えすぎて、生徒指導と運営を両立することが困難になっている。

ウ 小・中学校間交流 (鹿沼市の例)

a 特徴

- ・市の福祉事業の一環として「ふれあい運動会」という名称で、小・中学校の特別支援学級と鹿沼市内の授産施設も一緒になって、この市主催の行事に参加している。

b 課題

- ・係担当と市の職員との連絡調整、各学校への参加希望調査、調整が必要であり、負担感がある。

エ 地区内小・中学校・特別支援学校間交流 (南那須地区 (那須烏山市、那珂川町) の例)

a 特徴

- ・各学校で班を組み、縦割りでグループを作る。

b 課題

- ・在籍児童生徒が増え、会場が狭く、危険な場面が見られることもある。

(3) 合同学習発表会

① 共通項目

ア 全体にわたって共通する項目

- ・市町のホールを借用し行う。
- ・前日舞台準備・搬入を行う。
- ・担当校を輪番制で決め、企画・運営を行う。
- ・市長や教育長など、行政の方を招待している。

イ 特徴的な項目（鹿沼市の例）

- ・中学生の選抜メンバーによるよさこい踊り、4校合同によるオペレッタ、太鼓の演奏など。
- ・地域の方による劇などがある。
- ・市の特別支援教育会の主催。

② 提案事例

ア 小学校間交流（宇都宮市・上三川町の例）

a 内 容

- ・午前 歌・劇・表現・合奏など入退場込みで1校10分。
- ・午後 ひかりライオンズクラブによるアトラクション。

b 特 徴

- ・ライオンズクラブ国際協会の主催。
- ・参加賞あり。

c 課 題

- ・練習時間の確保等負担が大きいため、参加校が減少している。
- ・前日の夕方準備を行うため、負担がある。

イ 中学校間交流 事例なし

ウ 小・中学校間交流（足利市の例）

a 内 容

- ・歌・劇・表現・合奏など入退場込みで1校10分。

b 特 徴

- ・作品展と即売会の同時開催。
- ・即売会で販売するものは、野菜、石けん、ペン立てなど児童生徒が栽培、製作したものの。
- ・1日開催、参加賞あり。

c 課 題

- ・練習時数の確保と授業との兼ね合いが難しい。
- ・観覧、発表する内容と児童の実態がそぐわない場合の対応。

エ 地区内小・中学校・特別支援学校間交流（南那須地区の例）

a 内 容

- ・習字、音読、歌、合奏、ダンスなど学習成果の発表を主とする。
- ・各校持ち時間10分。

b 特 徴

- ・手をつなぐ親の会の会行事として行っている。

- ・卒業を祝う会と同時開催。

c 課題

- ・練習のための時数確保。
- ・情緒に課題を持つ児童生徒が急に出席なくなる場合がある。
- ・午前中で終了し給食に間に合わせる学校もあり、実施時間の短縮が求められている。

4 成果と課題（全体のもの）

(1) 成果

① 合同運動会

- ・中学生が招集係や応援をすることで、リーダー性を高めることができる。
- ・出場種目を自己選択することで、意欲的に参加することができ、自己有用感を高めることができる。
- ・地域の児童生徒と交流することで、社会性を高めることができる。
- ・児童生徒や保護者の交流する場となり、地域でのつながりを高めることができる。

② 学習発表会

- ・協力し合い、一つのを仕上げたいこうとする態度を身に付けることができる。
- ・各校の学習の成果を発表し合うことにより、友だちへの理解と親睦を深めることができる。
- ・大勢の前での発表の機会を得ることにより、自主的・積極的に学習に取り組み、表現力を高めることができる。
- ・中学生の発表を見て、小学生やその保護者が将来への期待や見通しをもつことができる。
- ・合同学習発表会を体験したことにより、他の発表場面でもしっかり発表できるようになるなど、自信につながっている。
- ・集まって合同で練習をすることもあり、児童生徒同士のよい交流の場になる。
- ・公共施設や公共機関の使い方に関して、よい学びの場となる。
- ・来場する保護者が子供の成長を見ることができ、保護者同士の交流の場にもなる。
- ・行政、学校関係者に特別支援教育を啓発する場となる。

(2) 課題

① 運営上の困難さ

- ・参加人数の増加による会場や駐車場、ボランティアの確保。
- ・参加校や参加人数の減少による実施の困難さ。
- ・児童生徒の特性による困難さ。
- ・学校方針による参加・不参加の問題。

② 練習時間の確保

③ 教員の負担の増大